

本事象は、法律に基づく報告事象や安全協定の
異常時報告事象に該当するものではありません

平成24年7月16日
日本原子力発電株式会社

敦賀発電所2号機の循環水配管の損傷事象における原因と対策について

敦賀発電所破砕帯追加調査の一環として実施している構内のボーリング作業において、7月6日14時頃、地下に埋設された2号機循環水^{※1}配管を損傷させる事象が発生しました。

2号機は現在第18回定期検査中であり、当該系統は停止中で水抜きされているため、損傷箇所からの海水等の流出はなく、また、当該系統に放射能は含まれておらず、本事象による周辺環境への影響はありません。

(平成24年7月9日お知らせ済)

調査の結果は、以下のとおりでした。

○請負会社は、当社から提示された埋設配管が適切に示された図面により、ボーリング位置と埋設物の位置を示す図面（以下「位置図」という。）を作成する際、2本が並んで埋設されている循環水配管の中心だけを破線で表記したため、2本の破線を1本の配管の幅と誤解し、ボーリング位置と循環水配管とは干渉しないと判断しました。

○当社は、請負会社が作成した位置図の提示を求めず、循環水配管の位置が正確に反映されているかの確認をしていませんでした。

これらのことから、誤った位置でボーリングを実施し、循環水配管を損傷させたと推定しました。

対策として、請負会社はボーリング位置を決める計画の段階で、埋設物等確認チェックシートを作成し、埋設物の位置や幅を正確に記入した位置図を作成の上、埋設物と干渉しないことの確認を行い、当社もその位置図を確認します。

上記の埋設物等確認チェックシートにて確認が完了したものから、ボーリング作業を再開します。

なお、損傷した循環水配管は、内部の点検等を行っており、今後、補修を行います。

※1：タービンを回転させた後の蒸気を水に戻すために、冷却用の海水を供給する系統。

